

桜が岡

向洋中だより（第2号）
下関市立向洋中学校
平成27年7月16日発行



今年の5月の朝、職員室に、ある地域の方からお電話がありました。それは、本校の生徒が登校中、気持ちのよい挨拶をしてくれ、それが嬉しく、そのことを伝えたくてといった内容でした。「あいさつをすること」「こだます」ことについては、これまで学校全体で考え、生徒会活動でも呼びかけてきたことですが、この地域の方からの一本の電話は、私たちにとって大変嬉しく、自信になるものでした。1学期、学校と保護者、地域の方と取り組んできたことについてお知らせします。

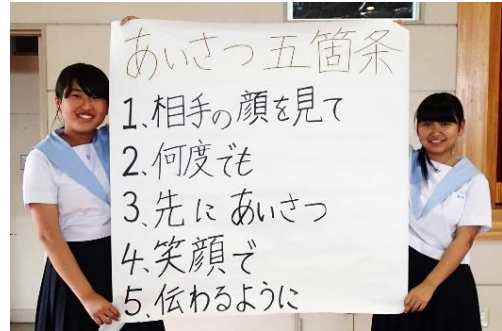
(1) 生徒総会第1号議案「あいさつの活性化について」

生徒が日頃あいさつをするなかから考えた、気持ちの伝わる挨拶のポイントを、五箇条にまとめました。

校内ですれ違うときの、生徒の表情も変わってきたように思います。

(2) 向洋校区青少年健全育成協議会スローガン募集

7月に本校で開催された向洋校区青少年健全育成協議会総会において、岸田麻衣さん（3年生）の作品が選ばれました。



「あいさつをすれば広がる こだまの輪」

(3) 向洋校区コミュニティ・スクール「熟議」

今年度、向洋校区小中連携の最重点取組項目を「あいさつ」、キャッチフレーズを「行きかうあいさつ、行きかう笑顔」としました。元気なあいさつがこだまする地域にしていくために、小・中学校と家庭、地域がそれぞれの課題を出し合い、協働して取り組めることを話し合いました。

〔課題〕

- ① 中ではできるが、外ではできない（学校の中では○、校門を出ると×、部活では○、部活を離れると×、家の中では○、外に出ると×）。
- ② あいさつが返ってこないこない子供。⇔「はい」等返事が言えない子供。

〔協働して取り組みたいこと〕

- ① 幼少期からの生活習慣として身に付けさせる。
 - ② 地域全体で、継続して取り組むことが必要。
 - ③ 小中が連携し、小から中へと継続させていく。
 - ④ 「地域での取組」と「学校での取組」の相互作用が大切。
 - ⑤ 家庭→見本を見せる。 学校→習慣化させる。
習慣になれば自らできる。
 - ⑥ 地域とのつながりを増やす。外に出る、関わることで、あいさつの必要性を感じる。
 - ⑦ 大人、地域の人から声をかけ続ける。
→顔見知りになる。→信頼が生まれる。
 - ⑧ 大人どうしも、あいさつを交わす。
- 今後、生徒の熟議も行いたいと考えています。



○ 社会を明るくする運動 7月1日(水)

本校の生徒会役員が、保護司の方々と一緒に、東駅バス停留所周辺で行われた、「社会を明るくする運動」に参加しました。学校や仕事場に向かわれる方に近づき、元気よく「おはようございます」とあいさつをしながら、「犯罪や非行を防止し 立ち直りを支える地域のチカラ」と書かれたティッシュを渡しました。



○ インターネット安全教室 (第2回向洋中学校コミスク授業) 7月1日(水)

auを展開する通信会社KDDI社から講師をお招きし、携帯電話、スマホ、インターネットに潜む危険性についての話を伺いました。

- ①インターネットの世界に拡散した情報は、一生消えない。
また誰がやったかすぐわかる。(ネットイナゴ。炎上)
- ②文字コミュニケーションは難しい
顔、表情が見えないため「気持ちが伝わりにくい」
「自分の都合で考えてしまう」「軽はずみな言動をとりやすい」
トラブルは想像を超えるスピードで深刻化します。



○ 下関みらい塾 7月7日(火)

下関市教育委員会の学校向け講座「下関みらい塾」で、福岡県行橋市の内田産婦人科医院助産師、思春期相談もされている内田美智子様にご講演いただきました。

2800人以上の赤ちゃんを取り上げてきた中からのご経験から、「お母さんがあなたを生むことのできた奇跡、ここにいる幸せを大切にしてほしい。」と思春期真っ只中の生徒たちに熱く語られました。また大学生の最近の食生活の現状を挙げ、「夏休みのご飯を、自分で作ってごらん」と生きる基本となる「食」の大切さについてもお話されました。



向洋中学校生徒会からのお願い

今年10月18日に実施する「第56回文化祭」に向け、全校アート「ペットボトルキャップ壁画」を制作します。3万個のペットボトルキャップの回収を目標としていますが、現在の回収個数は、約5千個です。使用したペットボトルキャップは、作品展示後、社会福祉協議会を通じて、医療後進国でのポリオ接種に役立てていただく予定です。

本校玄関に、回収箱を設置しておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。